

智仁親王御年曆

解題

智仁親王御筆、一卷。^(一五九六)慶長元年、御年十八歳より元和六年、御年四十二歳の間に亘つて親王が自ら編集した御年曆で、慶長十八年の假名具注曆を反故して紙背に記されている。

假名具注曆は、縦三十一・三厘、横五十・七厘の表裏雲母引き斐楮交漉紙十六紙よりなっているが、御年曆記事は、その紙背に幅二・一厘の墨界線を引き、界線内一行乃至二行書きで、六紙分で終っている。

題簽に「智仁親王御年曆<sup>慶長元年
至元和六年</sup>」とある現装幀は當部で行つたものであるが、その折、以前本書の包み紙であつたと思われる慶長十七年同十九年分の下書一紙（楮紙、縦三十厘、横二十七・五厘）が、表紙見返に貼附されて、残されている。

八條宮智仁親王は、陽光院（誠仁親王）の第六皇子。新上東門院を母として天正七年正月八日に誕生し、六宮と號し、胡佐磨と稱した。^(一五七九)

天正十六年、豐臣秀吉の猶子に迎えられたが、翌年實子を得た秀吉の請により、三千石を獻ぜられて八條宮を創立し、天正十九年正月二十六日、智仁の御名で親王宣下、同二十九日に元服して式部卿に任ぜられた。慶長三年、兄後陽成天皇より讓位の意向があつたが、曾て秀吉の猶

子であつたことなどを理由に、時の内大臣徳川家康等の反對により沙汰止みとなり、その後御生活は學藝中心となつた。慶長五年の細川幽齋よりの古今傳授、元和初年頃よりの桂別業の造營等は、親王の御經歷中特筆すべき事柄である。

^(一六二九)寛永六年三月七日、御年五十一歳で薨去。法號桂光院。宮家は、嗣子智忠親王以後、常盤井宮、京極宮、桂宮と順次稱された。

本書の内容は、前後に分かれ、前半は、御自身の歌文關係の事歴をまとめて記載され、行を改めた後半では、歌文關係を含めて御動靜、御身邊の事件、世事の様相等の勝事を簡潔に記事されている。親王の御日記が、慶長四年^{四季}・同五年^{春九月}・同六年^{四・五月}・同七年^{四季}・同八年^{四・五・正・二}・同九年^正の僅か四冊二軸（當部藏）しか残されていない現在、當時の宮廷文化の中心人物であつた親王の、古今傳授關係、桂別業造營等を含む文化活動をはじめ、豐臣から徳川への政權轉換期に於ける諸親王・諸門跡・公家等の動向までも窺知することの出来る點で、内容は簡單であるが、本書の史料的價值は高い。

なお本書が（元和）「七、四十三才」と、年次と御年齢を注されたままで終っていることと、御筆體が、數年に亘つて書き繼がれたとするよりも、短期間に一気に書き上げられたと判定されることから、本書は、元

和七年前後に、御日記を基に作成されたものと推定される。

(例言)

一、本書翻刻にあたって異體・略體文字は、正字に直した。

一、本文中、便宜讀點(・)、並列點(・)を附した。

一、原本各紙のはじめの行頭に算用數字で張數を示した。

一、虫損の部分は、その字數を測つて□で示した。

一、編者の加えた註のうち、校訂に關する註で本文に置きかえるべき文字を含むものには「」を、それ以外の校訂註及び人名その他の説明註には()を附した。

一、原本墨界線内二行書きの部分は「」でくゝつたが、元和元年以降は、全て二行書きなので「」をはぶいた。(嗣永芳照)

(1)慶長元年、十八才、連歌講尺幽齋ニ聞、雨中吟・未來記講談幽齋□聞(細川藤孝)

〔閏七〕月□日、夜大地振

二、十九才、六月十五日、色發句、幽齋・之昌三吟會(智仁親王)

三、廿才、禁裡御□之歌、幽齋ニ點取、十二月、幽齋ニ點取之十首詠ス、□・勸修寺・中納言三吟、紹巴ニ點取(予カ)
(萬里小路充房カ)
(里村)

四、廿一才、幽齋ニ點取之十首詠ス、照門跡ニ點取之三十首詠ス、禁裡(道澄惟后)

三十首御點取詠進ス、色發句、德善院會(六・七)
(前田玄以)

四月二日ヨリ春日・初瀬參詣ス

五、廿二才、古今集傳受ス、三月、五十首詠ス、幽齋ニ點取、色發句連歌、白・幽齋出座(道澄惟后)

六、廿三才、住吉社法樂百首詠ス、幽齋ニ點取、十一月、幽齋發句連歌

五月廿六日、禁裡御申沙汰之御能アリ

(2)七、廿四才、禁裡御著到百首詠進ス、端ハ照門跡御添削、奥ハ幽齋添削、

十二月廿三夜、獨吟十五首詠ス(三・二)

二月廿日、大坂秀頼禮ニ下向ス、八月、豐國へ參詣ス、書院たつる、
大佛火事(方廣寺)

八、廿五才、十月九日、玄仍發句會、十一月十二日、昌琢發句會、二月十三日、禁裡御會、發句申伺公ス、二月十三日、大門跡御歌會(里村)
(空性法親王)

出座、三月十三日、連歌會、白・玄仍・昌琢出座、聖護院殿御連歌(興憲法親王)

出座ス、五月廿日、連歌、照門跡・玄仍・昌琢・玄仲出座、仲長老(里村)
(傳印)

蒙求講尺聞、也足出座連歌、十二月、連歌、照門跡・玄仍・昌琢・玄仲出座(中院通勝)

玄仲出座

二月十九日、大坂へ下向、二月廿八日、吉田左兵衛振舞、五月十日、幽齋來、はやし一宗など來、六月、志那連見ス、八月、
〔豐國〕
へ參詣ス、秀頼祝言、使大弼くたす(八條宮大夫)
(八・十一)

九、廿六才、閏八月十五日、杉御發句會、卯月廿日、連歌、白・玄仍・昌琢・玄仲・兼如出座、五月九日、近衛殿御連歌、予發句出座、八月廿七日、一條殿御連歌出座(兼如)
(近衛基尹)

昌琢・玄仲・兼如出座、五月九日、近衛殿御連歌、予發句出座、八月廿七日、一條殿御連歌出座(内基)

月廿七日、一條殿御連歌出座

〔正・廿七〕
大坂へ下向、豐國七年おとり、妙法院殿へ見物ニ參、十月五日、高雄紅葉見ス

十、廿七才、十一月廿九日、禁裡百首十人之御當座伺公ス、九月十六

日、禁裡一日御千首之御當座伺公ス、四十首詠ス、六月廿三日、梅印章句漢和會、傳長老出座、四月廿二日、色發句會、玄仍出座、

〔卯月二日、也足・兼如・吉左衛門・兼達出座連歌、五月廿二日、連歌、玄仍・昌琢・玄仲出座、〔六月九〕歌會、也足出座、七月、連

歌、玄仍・昌琢・兼如出座、十月、連歌、玄仍・玄仲出座、十一月、連歌、阿野・底相・兼如四吟」

〔正・廿九〕
大坂へ下向ス

十一、廿八才、十首詠ス、幽齋ニ點取、戀十五首詠ス、也足軒ニ點取、十一月十四日ヨリ甫長老ニ古文眞寶講談聞、十一月、柔長老章句漢

和之會、二月、照門跡へ御連歌ニ出座、五月廿三日、新殿へわたまし、十一月九日、新殿始而會、人數「聖護院殿・竹門跡・廣橋大納

言・中院入道・勸修寺中納言・白川・平宰相・阿野・烏丸宰相・中院侍從・平少納言・左・右衛門佐・別當法印」

七月、大坂秀頼へ作事之禮ニ下向ス、十一月十四日、甫長老ニ古文眞寶講尺始而聽聞ス

十二、廿九才、也足軒月次之會出座ス、三月十九日、勸修寺中納言發句會、玄仍出座、二月十六日、常光院和漢之會、予發句出座、二・

三月、三日ニ一度ツ、古文眞寶講尺アリ、二月十九日、連歌、玄

仍・昌琢・玄仲出座、七月、保長老・常光院・底相・色四吟會、八月二日、連歌、勸修寺中納言・昌琢・玄仲出座、八月三日、甫長老

ニ三昧詩聽聞始ム、八月・九月中三日ニ一度ツ、講尺アリ」

〔正・廿九〕
大坂へ下向ス、醍醐紅葉見ス、十二月、主上院御所へ御わたまし、羽柴越中來、鞠アリ

〔3〕十三、卅才、也足軒月次之會出座、百首詠ス、也足軒ニ點取、十二月廿七日、禁裡卅首詠進ス、三月、連歌、玄仲出座、三月廿日、阿

野興行連歌、予發句、出座、九月十一日、連歌、昌琢出座、十一月、聖護院殿御連歌出座、十二月、連歌、昌琢出座」

〔正月廿八日、大坂へ下向ス、紀伊國見物ニ下向ス、三月廿六日、秀頼ほうさう見廻ニ大坂へ下向ス、四月、親王様御成申、能アリ」

十四、卅一才、也足軒月次之會出座、正月、予發句會、昌琢出座、八月、予發句、和漢之會、昌琢出座、八月十五日、獨吟十五首詠ス、

三月四日、玄仲・兼如出座、六月十二日、連歌、勸修寺中納言・昌琢出座、八月二日、一乘院殿・昌琢・玄仲・賀古豐前出座、連歌、

九月、岫長老兩吟之和漢、九月十日、漢和之會、藤長老・昌琢出座、九月廿九日、照門跡御連歌出座、十月、色・常光院・岫長老・阿野

四吟、宗嗣三略之講尺聞、十月、連歌、昌琢出座、十二月、連歌、云、東・阿野・少納言・慶純・紹由・色七吟、十一月十

二日、舟橋秀賢中庸講尺聞」
〔正・十七〕
大坂へ下向ス、十一月廿九日、幽齋來、老耆之鉢也、新書院建、

十二月二日、始振舞」

十五、卅二才、愚亭月次之和歌之會アリ、竹門跡・白川・阿野など出

座、兼日・當座アリ、竹門跡聖廟御法樂御月次ニ出座、三十首詠、

二月、燈火一時十五首詠ス、「二月十七日、五吟之連歌、三月、連

歌、昌琢出座」

〔大坂へ下向ス、二月廿七日、大原野花見ス、三月廿五日、也足軒

逝去、八月廿日、幽齋卒

〔新上東門院(聖護院)(正・十三)
女院御所長谷へ御成、八月、還幸〕

十六、卅三才、愚亭月次之和歌之會アリ、竹門跡聖廟御法樂御月次ニ

出座ス、三月六日、東福寺不二庵花見當座アリ、禁裡御月次詠進ス、

六月廿五日、禁裡御當座伺公ス、九月十三日、仙洞御當座八首詠ス、

於古澗、詩歌之當座アリ、六月十一日、昌倪發句會、昌琢出座、正

月廿六日、予發句會、昌琢出座、八月六日、昌琢發句、云・玄仲・

恕云・色五吟

十七、卅四才、禁裡御月次詠進ス、竹門跡聖廟御法樂御月次出座ス、

二月二日、予發句會、昌琢出座、二月九日、仙洞御當座伺公ス、四

月廿三日、愚亭詩歌當座、予發句、倅長老兩吟、予發句、昌琢・恕

云三吟、七月二日、予發句、山崎左馬助出座、十月、予發句、慶純・

紹由三吟、十一月三日、了俱發句會、昌琢出座

三月、丹後橋立・若狹浦へ見物ニ下向ス

十八、卅五才、禁裡御月次詠進ス、竹門跡聖廟御法樂御月次ニ出座、

二月十三日、予發句會、昌琢出座、四月四日、愚亭詩歌會當座、卯

月三日、色・慶純・了俱・昌倪四吟和漢之會、五月、色・玄仲・紹

由・宗順四吟、一巡ばかり無會、七月九日、一〇院御出座連、昌

琢出座なし、八月九日、宗禰講尺、八月十八日、韓長老東坡講尺

聞、九月七日、和漢之會、十一月十四日、連歌會、昌琢出座

正月、大坂秀頼諸禮ニ下向ス、二月七日、家中者能始、三月十四日、

比叡山へ上、三月晦日、二條殿・鷹司殿・梶井殿・青門跡など御

成、牡丹見アリ

十九、卅六才、禁裡御月次詠進ス、竹門跡聖廟御法樂御月次出座ス、

二月、予發句會、昌琢出座、三月廿日、愚亭牡丹見當座アリ、昌琢

發句會、六月十三日、玄仲發句會、七月四日、仙巖發句會、九月十

一日、昌琢發句會、和漢、「三月十日、連歌、昌琢出座、五月十二

日、連歌、色・紹由・了俱・昌倪四吟、六月十三日、連歌、昌琢・

玄仲出座、六月廿四日、照門跡御連歌、出座、七月四日、連歌、昌

琢出座、九月十一日、和漢御會、保長老・藤長老・昌琢出座、九月

十三日、當座歌會」

〔大坂へ下向ス、三月廿四日より初瀬開帳ニ參詣ス、三月、花見切

々アリ、四月、牡丹見切々、芍藥見アリ、七月十七日、三宮御成、

能アリ、九月十五日、日待能アリ、九月十九日より長谷へ行、廿四

日ニ歸、九月、洛中伊勢おとりアリ、廿八日、町のおとり、禁中

參、十月初比ヨリ大坂兵亂興、十一月比ヨリ大御所・將軍上洛、諸

國之大名不殘大坂軍、十二月十二日、將軍兩御所爲見廻、宮内少輔・(大犬山中氏)木工大坂へ遣、十二月廿日、あつかひにて大御大所歸京(マ)

(5) 元和元、卅七才、二月三日、連歌、昌琢・玄仲出座、八月八日より孟子之講尺宗嗣ニ聞、八月十五日、歌會、九月十日、和漢、十月十九日、連歌、昌琢・玄仲出座、十一月廿日、和漢之會、保長老・藤長老・昌琢出座、十二月十四日、連歌、昌琢出座

二月七日、能、廿六日、親王・准后談合ニ伏見殿・仁和寺殿・梶井殿・照門跡・竹門跡・妙門跡・新宮・大門跡・大炊御門大納言・(實勝)日野大納言・(光起)菩提院御出、三月廿九日、女院御所にて大膳ニ御能被仰付、四月初比ヨリ又大坂亂出來、四月十七日、大御所上洛、五月五日、大御所・將軍大坂立、七日ニ大坂落城也、八月十九日、能、(天德)南光坊・山衆見物、九月四日、能、梶井殿・竹門跡・青門跡・公家衆・連歌衆見物、九月十五日、日待能、内々公家衆見物、十二月八日、梶井殿・白川御出、上手衆集、碁・將碁アリ、山名禪高於妙心寺、振舞アリ

二、卅八才、正月廿三日、連歌、岡部内膳出座、昌琢出座、二月、連歌、昌琢出座、二月、和漢之會、(最良元良)良西堂・暁長老・紹由・昌侃出座、色漢、三月、仙洞和漢之御千句伺公ス、三月廿日、漢和之會、保長老・古澗・紹由・昌侃出座、予漢也、卯月十五日、連歌、玄仲出座、五月二日、宗嗣(史カ)ニ史記之講尺聽聞ス、六月三日、講尺終、珍重、五月廿八日、連歌、昌琢・玄仲出座、七月廿八日、連歌、昌琢

出座、九月七日、宗嗣講尺、九月廿九日、和漢之會、保長老・昌琢出座、十月、連歌、禪高・昌琢出座、玄仲□、十一月十日、連歌、昌琢・玄仲出座、

三月十二日、山王へ參詣ス、三月、牡丹見切々アリ、四月十六日、(勝所)せき芍藥見物ス、舟ニテ石山へ參詣ス、四月十七日、於駿河、大御所薨、六月廿七日、川勝寺爪見、桂川逍遙、公家衆・連歌衆・亂舞衆同道、廿九日、(近衛御子)女御御方川勝寺・桂へ御成申、九月九日、醍醐神事能見物、十月廿七日、(信等)近衛殿・一條殿・三宮御方・曇花院殿・(聖考)光照院殿・(尊清)近衛政所・(尊覺親王)十宮御方御成、能アリ、十月比ヨリ臺屋建

三、卅九才、禁裡御月次之御當座伺公ス、竹門跡聖廟御法樂御月次ニ出座、五月十二日、和漢之會、保長老・古澗・昌琢出座、六月十五日、連歌、十二月、連歌、九月十三日、於竹門跡、(良範)惠心院法花講尺聽聞ス

正月晦日ヨリ江戸へ下向ス、三月十四日、上洛ス、卯月五日、牡丹見、門跡衆・公家衆・長老衆・本因坊・連歌衆來、卯月九日、(家久)嶋津來、廿二日牡丹見、(施藥院宗伯)藥院・連歌衆・謳者共來、五月十五日、日待能アリ、六月十七日、賀茂河逍遙、めつらしき事ともあり、六月末、將軍上洛、伏見へ禮ニ出、七月十六日、(京極高知)丹後守・(京極高廣)同采女正來、八月五日、(後鳥羽院)松平阿波守來、八月廿六日、仙洞崩御、十月七日、有馬へ湯治ス、廿四日ニ上洛、十一月五日、女院御所長谷へ御成

四、四十才、正月十八日、於禁裡、傳長老錦繡段御講尺、聽聞伺公ス、

(6)

廿八日、詩歌當座、竹門跡・廣橋大納言・公家衆・傳長老・南禪寺衆・連歌衆出座、二月、連歌、岡部内膳・昌琢・玄仲出座、閏三月九日、連歌、昌琢出座、十七日、和漢之會、卯月九日、色・紹由・宗順三吟、五月廿六日、和漢、色漢、保長老・紹由・昌侃出座、六月廿八日、中俣山谷之講尺、七月廿九日、連歌、昌琢出座、八月廿八日、和漢、藤長老・古澗・昌琢出座、九月十三日、照門跡御連歌出座、十二月十七日、連歌、色・慶純・了俱・昌侃四吟、二月、禁裡御連歌、發句申、竹門跡聖廟御法樂、三度ハかり出座、禁裡御當座ニ伺公、五月十二日、禁裡和漢之御會伺公ス

二月七日、能アリ、二月廿五日、延壽院・下村なと來、謳アリ、卯

(由直彌玄明)

月、女院御所長谷より還幸、十九日、禁裡ヘ女院御所御幸、卯月廿六日、能、五月十五日、日待能アリ、六月廿四日、陽光院三十三年法事、恵心院講師、論義アリ、竹門跡・照門跡・公家衆・連歌衆・長老衆聽聞、はやし・能あり、九月七日、能

五、四十一才、正月、連歌、照門跡・昌琢出座、三月四日、和漢、云・

東・保長老・藤長老・古澗・昌琢・玄仲出座、十月十五日、和漢之會、云・保長老・藤長老・古澗・昌琢・玄仲出座、五月三日、松平薩摩守出座、晴和歌會アリ

(家久)

二月廿六日、宇治河追遙、直ニ住吉ヘ參詣、正月ヨリ數奇屋くさりの間建、五月卅日、數奇屋開、石川宗林・壽德庵・昌琢來、將軍上洛、九月十六日、伏見ヘ禮ニ出、七月十七日、政宗數奇ニ來、七月

(玄也)

(伊達)

(九)

廿五日、黑田筑前來、七月廿七日、森美作守・松平阿波守來、八月十日、庚申能、京極采女正見物、進藤久右衛門兄弟暇、虎屋長門一番スル、八月十一日、近衛殿・藤堂泉守・京極丹後守數奇、八月十九日、朝、松平長門守・毛利甲斐守數奇、九月三日、唯心軒・寺澤志摩・朽木牧齋數奇、十月、高雄紅葉見、竹門跡・白川なと同道、十一月廿二日、木下宮内少輔數奇

(利房)

六、四十二才、正月廿八日、連歌、昌琢出座、八月六日、詩歌之當座、

くさりの間、云・東・公家衆・藤長老・昌琢・玄仲出座、八月十六日、漢和、暁長老・良西堂・了俱・慶純・紹由、色漢、十一月晦日、色・玄仲・紹由・慶純四吟

二月十八日、新上東門院崩御、二月廿九日、申刻より洛中大火事、三月四日、洛中又火事、日夜火をつくる、洛中不殘ゆかをあげ、番をする也、三月廿二日、新上東門院卅五日、相國寺衆饑法、門跡衆・公家衆・連歌衆聽聞、四月四日、西教寺ヘ參詣ス、五月十四日、内義之衆西方寺ヘ參詣、四月廿二日、若色宮參、六月十八日、

(智忠親王カ)

女御入内、下桂茶屋之普請スル、度々客あり、七月十九日、近衛殿

(徳川和子)

之とおり、十九日ニかへスル也、連歌衆歷々來、十月七日、於江戸、照門跡御入滅、十一月廿七日、有樂・玄仲・宗林・後藤源左衛門數奇ニ來、閏十二月廿一日、能

(藤田長谷)

(金勝)

七、四十三才、